

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21 世紀の国際社会をリードする新しい時代のリーダーを育てる学校めざす。
1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルなリーダーを育てる。
2 夢や志を実現できる確かな学力を身につけさせ、生徒の進路希望の実現を図る。
3 豊かな心や三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育む。また、要配慮生徒への支援や人権尊重の精神を涵養し、安全・安心な学校をつくる。
4 教職員の資質の向上と機動的な学校運営体制を確立させ、府立高校の評価・信頼向上のリーダー校をめざす。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する (1)グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する ア 進路意識の醸成を図る 「総合的学習の時間」・LHR等で社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、卒業生を活用し大学や社会での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。 ※ 「三丘セミナー」等の充実を図り、毎年 20 講座以上提供する。 ※ 「CS 探究・CS 研究」の充実による志の形成サポートや大学のオープンキャンパスなどを活用し、学部選びや将来の志望育成を図る。 ※ 「京大見学会」「東京方面キャンパスツアー」を毎年実施し、研究室訪問などを行うことにより、高い目標を醸成し、その満足度を 90%以上とする。 ※ 本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 イ 高い志を育成する 三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験などの具体的なプログラムを提供するとともに、難関大学の見学会や体験事業を通じて社会に貢献できる高い志や目標意識を育む。 ※ リーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会を充実させ、生徒の満足度を 90%以上とする。 ※ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を年 5 回以上実施するとともに、その内容の改善・充実を図り、満足度 90%以上を維持する。 ※ 医療現場と連携して医師・看護師などの医療系職場体験の充実によって、医療系進学者の増加を図る。(H24 年度 24 人、H25 年度 32 人、H27 年度 29 人) (2)国際感覚とグローバルリーダーの育成を図る ア グローバルリーダーの育成 スーパーグローバルハイスクール（SGH）、グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）にふさわしい確かな学力を育てるため、「Creative SolutionsⅠⅡⅢ」・「CS 探究」を充実させ、確かな英語の学力をつけるとともに、グローバルリーダーをめざした目的意識を醸成する。SGHカリキュラムによる「メルルハースト大学」の派遣教員の授業、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 また、スーパーイングリッシュティーチャ（SET）の配置に伴い、「TOEFL 授業」の開発・構築をはかる。 ※ 「SETを活用した英語授業」の構築と内容の充実を図る。授業満足度 70%以上をめざす。 ※ 英語教育の充実を図り、TOEFL ITP、TOEFL iBT の受験者 300 名以上をめざす。海外進学 1 名以上をめざす。 ※ 学校教育自己診断（生徒）「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」肯定的評価 70%以上をめざす。(H27 68.2%) イ 国際感覚の育成を図る オーストラリア・スタディツアー、アメリカ・スタディツアー（ポートランド・NASA）やフィリピン・スタディツアー、海外への修学旅行(H28 年以降 3 年間は台湾)、スポーツ海外交流をしっかりとした企画のもと充実した内容で持続的に実施する。 ※ すべての企画で満足度 90%以上をめざす。 ※ 海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れ 20 名以上をめざす。また、中国・韓国との交流にも努める。 ※ 学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 80%以上をめざす。(H27 生徒 83.6% 保護者 85.8%) 【2】 確かな学力の向上と進路希望の実現を図る (3)質の高い授業による確かな学力向上 ア 質の高い授業の提供 SGH・GLHS・SET配置校としてふさわしい確かな学力を育てるため、関連科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、アクティブラーニングや電子黒板を用いた双方向の授業方法などの研究を進める。 ※ SGH・GLHS・SET配置校として毎年 4 回以上の授業公開を行うとともに、保護者への授業公開も 3 回以上行う。 ※ 1・2 年生で 1 日 2 時間以上の自学自習（学校外での学習時間）をめざし、そのための指導を充実する。 ※ 授業アンケートや研究授業、校内の相互授業見学などを活用して授業力向上を図り、質の高い授業により生徒の授業評価における授業満足度が 80%以上を維持する。(H27 年度 87%) また、学校教育自己診断における保護者の授業満足度 60%をめざす。(保護者 H27 年度は 56.7%) イ 学力向上の取組み 教科会議を充実させ、教科としての教科指導力の向上をはかる。また隔週土曜日 4 限授業の導入に伴い、3 年生における新たな「三丘スタディーハード」の構築を図る。 1 年生及び 2 年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。 ※ 「三丘スタディーハード」の生徒の満足度 70%以上をめざす。 ※ 勉強合宿への参加生徒の満足度 90%以上を維持するとともに、つねにプログラムの工夫・改善を行う。 ※ 「CS 探究ⅠⅡ」（課題研究）や発表大会を充実させ、生徒の満足度 80%以上をめざす。 ※ 基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。 (4) 進路希望の実現 難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科）への進学者の増加を図る。(H27 年度 121 人) ※ 現役の難関国公立大学進学者数を毎年増加させる。(H27 年度 75 人) ※ 学校教育自己診断において、本校の進学指導に対する保護者の満足度 80%以上をめざす。(H27 年度 80.4%) ※ 1、2 年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習を行い、学力を養成する。 ※ 進路講演会、勉強合宿などを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。 ※ 卒業生チューターとの懇談を年間 5 回程度実施する。 生徒自らが適切な進路選択ができるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。 ※ 進路ホームルームの充実と 3 年間を見通したプログラムの進化に努める。 【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養 (5)生活習慣の確立と三丘スピリット育成 規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。 ※ 1 日 1 クラス当たりの遅刻人数を 0.5 人未満の維持をめざす。 ※ 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育てる。 ※ 各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。また顕著な成績をおさめた生徒は積極的に顕彰する。 ※ 1、2 年生の部活動加入率 95%以上の維持をめざす。 ※ 悩みや不安を抱えた生徒に対応するため教育相談やカウンセリングの機能を高める。

（6）人権尊重の教育推進

- 情報リテラシーの育成などの今日的課題をふまえつつ、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養するため、日常の教科教育のみならず、あらゆる場面で教職員が、人権教育に協力して取り組んでいく。
- ※ 毎年、学年ごとに1回以上の人権講演会および人権HRを行い、人権意識を涵養する。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権・環境・福祉などの今日的課題について学習する機会がある」に対する肯定的意見50%以上をめざす。（H27年度52%）
そのため、人権教育推進委員会と学年、分掌が連携して、恒常的な情報交換を行う。

【4】 機動的な学校の運営体制の確立と教職員の資質向上

（7）機動的な学校運営

- 機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。
- ※ 教職員個々の評価・育成システムでは学校経営計画の項目に関連した目標を設定し、取り組む。また、年度末の自己評価で明らかになった課題や改善点は次年度の目標に反映させる。
 - ※ 組織的・機動的な学校運営ができるよう、学校組織や業務の見直しに不断の努力を行う。
 - ※ ICTが活用できる環境作りと機動的な情報伝達と共有を図り、全員がICTを使って業務の省力化を図る。
 - ※ ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施をめざす。

（8）安全・安心で開かれた学校

- 安全で安心できる学校をつくるため、緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。
- ※ 各学期1回以上の研修を実施する。
生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に課題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を深める。
 - ※ 各学期1回以上のケース会議の開催と、随時の学年団での情報交換会を開催する。
 - ※ 開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じ公表していく。
 - ※ Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供をめざす。
 - ※ 学校教育自己診断（保護者）の、「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が15%以下をめざす。（H27年度 否定的意見19.4%）
そのため、保護者集会（学年連絡会）を各学年で実施し、内容を充実させる。
 - ※ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。
 - ※ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。

（9）教職員の資質向上

- 新着任教員対象が、新しい職場への早期適応と研修の充実による教職員の資質向上を図る。
- ※ 若手教員の勉強会である「三究会」を中心に各学期1回以上の研修を実施する。
授業力向上をめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、教育産業等が主催する研修や他校の研修の受講を支援する。
 - ※ 教育産業や他校の研修に年間50人以上の参加を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（ 月 日）
1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進	（１）グローバルリーダーズハイスクールにふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進 ア 進路意識の醸成を図る イ 高い志を育成する （２）英語によるコミュニケーション能力の育成を図る ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成を図る	①「三丘セミナー」等の充実を図る。 ②探究的学習「ＣＳ探究・ＣＳ研究」の充実を図る。 ③科学の最前線にふれる機会を提供し、科学教育の充実を図り、理系進学者の増加を図るために、また高い進路意識を醸成するために「東京方面キャンパスツアー」を実施する。 ④本校にふさわしい３年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 ⑤リーダーとしての高い志を育成するために進路講演会・懇談会などの取組みを充実させる。 ⑥京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を実施する。 ⑦医師・看護師などの医療系職場体験を実施し、医療系進学者の増加を図る。 ⑧「メルルハースト大学」の派遣教員の授業を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 ⑨ＳＥＴを活用した英語授業の構築と内容の充実を図る。 ⑩英語教育の充実を図るとともに TOEFL ITP、TOEFL junior の受験者の増加をめざす。 ⑪オーストラリア・スタディツアー、アメリカ・スタディツアー、フィリピン・スタディーツアー、海外修学旅行、スポーツ海外交流を実施しグローバルリーダーとしての意識の向上を図る。 ⑫海外からの交流生徒・短期留学生の受け入れを積極的に行う。	①20 講座以上提供する 参加生徒の満足度 85%以上 ②課題研究選択生徒の満足度 85%以上 ③キャンパスツアー参加生徒の満足度 85%以上 (H27 年度 100%) ④３年計画の進路プログラムの充実 ⑤実施回数年 8 回以上 (H27 年度 8 回) ⑥実施回数年 8 回以上 ・学校教育自己診断（生徒）「適切な進路指導」肯定的評価 85%以上 (H27 年度 85.8%) ⑦参加生徒の満足度 85%以上 ・医療系進学者の 5 %増加 (H27 年度 29 人) ⑧生徒の授業満足度 90%以上 ・海外進学 1 名以上をめざす。(H27 年度 1 名) ⑨生徒の授業満足度 80%以上をめざす ⑩TOEFL ITP＋TOEFLiBT の受験者数 400 名以上をめざす (H27 年度 479 名) ・学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 70%以上をめざす (H27 年度 68.2%) ⑪スタディーツアー参加生徒の満足度 90%を維持 (H27 年度 90%) ⑫海外からの受け入れ 70 名以上をめざす (H27 年度 80 名) ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 80%を維持。(H27 生徒 83.6% 保護者 85.8%)	

2	確かな学力の向上と進路希望の実現	(3) 質の高い授業による確かな学力向上 ア 質の高い授業の提供 イ 学力向上の取り組み (4) 進路希望の実現	①SGH・GLHS・SET設置校として文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。 ②生徒の自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上確保させる。 ③授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図る。 ④1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。 ⑤課題研究(CS 探究)をイノベーション人材育成の観点から一層充実させる。 ⑥基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。 ⑦難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科等）への合格者の増加を図る。 ⑧1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習（三丘スタディーハード）」を行い、学力を養成する。 ⑨三丘エクセレンスなどを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。 ⑩生徒自らが適切な進路選択できるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化し、3年間の進路育成プログラムを完成させる。	①SGH・GLHS・SET設置校として、教員対象授業公開年4回以上、保護者への授業公開3回以上を実施する。(H27 年度 7 回) ②1、2年生で1日2時間以上の自学自習する生徒の割合 50%以上をめざす (H27 年度 43%) ③生徒の授業満足度 85%以上を維持 (H27 年度 87%) 生徒の「三丘スタディーハード」の満足度 70%以上をめざす。(H27 年度 90%) ④参加生徒の満足度 85%以上を維持 (H27 年度 100%) 生徒の参加数 100 名以上をめざす ⑤参加生徒の満足度 85%以上維持 (H27 年度 100%) ⑥「月下氷人」や「図書だより」を活用するなどして、読書指導を充実（1，2 年次は、学期に 5 冊以上読書） ⑦難関国公立大学合格者数を毎年増加させる (H27 年度 121 人) ⑧国公立大学現役合格者数を毎年増加させる (H27 年度 75 人) ⑨卒業生チューターとの懇談・相談会の年間 5 回以上の実施を維持 (H27 年度 7 回) ⑩本校の進学指導に対する生徒の満足度 80%以上をめざす (H27 年度 86%)	
3	基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養	(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成 (6) 人権尊重の教育推進	①規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。 ②部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育成する。 ③各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。 ④人間関係の構築などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養する。 ⑤人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。	①1日1クラス当たりの遅刻人数 0.5 人未満 (H27 年度 0.51 人) ②1、2年生の部活動加入率 95%以上を維持 (H27 年度 95%) ③挨拶運動を年2回以上実施 リーダー研修を年1回以上実施 (H27 年度 2 回実施) ④学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価 50%以上をめざす (H27 年度 52%) ⑤各学年、年1回以上の講演会と人権 HR の実施	

4 機動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上	(7) 機動的学校運営 (8) 安全・安心で開かれた学校 (9) 教職員の資質向上	①機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。評価・育成システムとより一層関連を深める。 ②校内イントラを一層積極的に活用し、情報の共有を進める。全員がＩＣＴを使って業務の省力化を図る。 ③安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。 ④生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を図る。 ⑤開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWe b ページを通じて公表していく。 ⑥文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。 ⑧新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。 ⑨学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。	①学校教育自己診断や提言シートなどを活用して、改善を図る ②利用についての研修を 1 回以上実施 (H27 年度 2 回) ③各学期 1 回以上の研修を実施 (H27 年度各学期 1 回) ④「こころのアンケート」の継続実施 ・「支援カード」の活用強化 ・随時、ケース会議を開催 ・随時、学年団での情報交換会を開催 ・相談できる先生がいる 70%以上維持 (H27 年度 72%) ⑤各学年の保護者連絡会等を実施 ・We b ページは随時更新し、行事等は 10 日以内の情報提供を行う ⑥地域住民、府民など公開する行事を年間 3 日以上設定する。 (H27 年度 7 日) ⑧年間 6 回程度の研修を実施する (H27 年度 5 回) ⑨・校内研究授業 各学期 1 回実施 ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間 50 人以上参加 (H27 年度 30 人)	
-----------------------------	--	--	--	--